

麴町區 夏の幼稚園所感 教育會主催

檜 山 京

醫學界の世界的權威者である土肥慶藏博士を會長とする麴町區教育會では去る七月二十一日から八月二十日まで「夏の幼稚園」を開催された。應募幼児數がどうかしら？ この炎暑、しかも長時間（八時から三時まで）訓練のない子等の保育に當る人があるかしら？ 今一つは經費問題。この三つは「夏の幼稚園」とつては扇の要の様なのであつた。經費問題は幹部の御努力に依て多額の寄附に依り解決され、僅三日間の締切で募集した幼児は豫定々員を越す事五十餘名といふ數を示し、奉仕的保姆の仕事喜んで引受けられた若い保姆諸姉十數名に及んだ。この中四名は期間中日の缺勤もなく又一保姆氏は人生最大の悲に（父君逝去）遇はれたにもかゝらず忌引後閉園まで涙ぐましい努力をつとけられた。そして思ひがけない事には八月三十日三十一日の様な強風雨の日却て幼児の出席は平常よりも多い組さへあつた。この雨の一日岸邊先生がお訪問下つて、子供達があ家へ歸るのを忘れる程面白いお話をして下さつた。又本校の先生は宿直の日にもさうでない日も

三脚とカメラを運んで、時には上六のプールへ、時には日比谷まで子等の楽しい日々の姿を永く止める爲に、お盡し下つた。すべてが子等への愛の奉仕、可愛らしいといふまななかではない、幼き生命を生命で守る、汗にまみれ涙にぬれた、必死の強い愛であつた。多くの子等を連れて車道を横断する時、交通巡査の代りに兩手をあげて立つ保姆はまづ我生命を子等の前に楯にした。午後一時、午睡の時であつた、こめかみに流れる汗を拭きもせず、年少のSちゃんを横抱きにして寢就かせて居た若いA保姆、お祖母さんが見えたとして急にだてをこねるIちゃんや年少の弟を盛にいぢめてあばれるMさん、を制さうとして小さい手を握たまゝ無言で落涙。若き夏の日を、海にも山にも遠ざかつて、只管子等の汗とざわめきの中に甲斐なく、愉快に立ち働かれた保姆諸姉に更めて無限の感謝を贈る。そして私もこの愉快な貴い子等への愛の表現である夏の生活にお仲間入りさせて頂いた事を心から嬉しく思ふ。詳しい事はいづれ稿を改めて御報告申上ませう。（九月はじめ）



水 鐵 砲

高く高く、二階の窓へ、三階へ、
屋上へ まつすぐ とどけ とどけ。

子「先生 鐵砲がこはれちやつた……」

母「さあ、はめたから大丈夫、ほーうら」

シユツ シユツ

空に投げらる銀線、直線、曲線入交り

「僕の一等高く行くよ、いゝかい君、

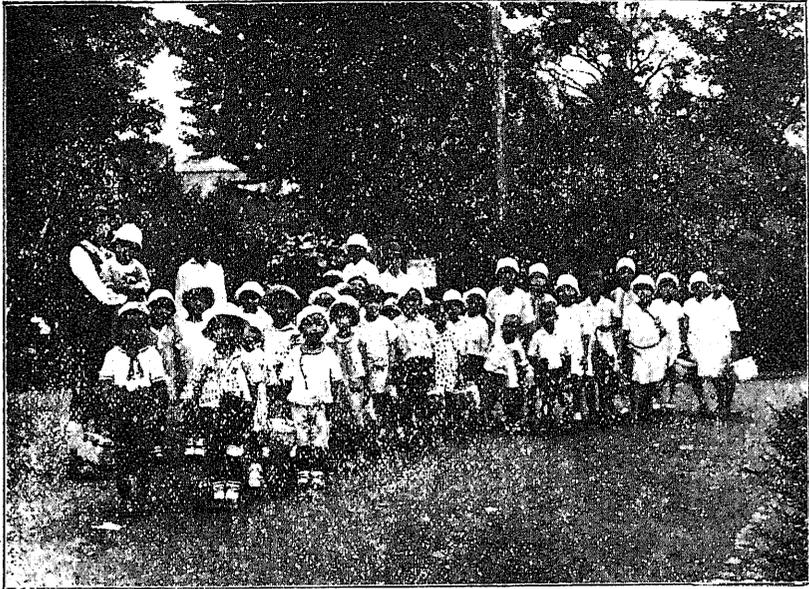
ホーラ」

「ミンくくく」 「ヤツ蟬だ 蟬だ この木だ」

「水かけようか」 「ウシかけよう」

蟬にあびせる 水つぶで。

午後二時の陽が かゝやかに。



公園のかへり道

あかしやの花がこぼれるプールで。よく面倒をみて下さった公園の小母さん、草地の木のままでお茶をはこんで下さった親切な公園のお兄さん達、それからお池の鯉にも、羊にも、熊にも、

「サヨウナラ」「マタキマシヨウ」

最年少のM子さんが何か云ひながら足にまつはる。

「あんよがいたい」んですつて、乗合自動車皆をお迎ひに来てく
れてゐる霞門までの間、では一寸と抱き上たら、日先生が、

「ア、一寸まつて、そのまゝ」

「カチャツ」



午 睡

組の室にうつつてから皆よく眠る。

熟睡したら、あをむけにして、手足を真直にのばす、

お腹へだけ毛布をかける。

K組の室、ふざげやのSちゃんと同若、

ころがり合つてはキヤツ／＼とさわぐ。場所を別にしようとする

とどうしても、何時の間にか二人ならんでしまふ、

鼻をつまんだり、耳を引ばつたり、

「ぢや、眠りつこ、ね、どつちか先に眠たものが、さきに水遊び、

ね「一、二、三」